

赤十字いしかわ

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

令和5年度秋号

令和5年奥能登地震



Topics

- ・日本赤十字社石川県支部の災害救護活動
- ・被災地(珠洲市)でのインタビュー
- ・災害からいのちを守るための日頃の備え



赤十字は、動いてる!

SAVE365

日本赤十字社は、皆さまのご支援で、
365日活動を続けています。

石川県支部
ホームページ



Facebook



X(Twitter)



Instagram



日本赤十字社キャラクター

ハートラビちゃん

石川県観光PR
マスコットキャラクター
ひやくまんさん

石川県支部オリジナルピンバッジ
©2013 石川県 ひやくまんさん #0937

日本赤十字社石川県支部の災害救護活動

5月5日 14:42 能登半島沖を震源にマグニチュード6.5の地震発生
(震度6強 珠洲市 震度5強 能登町 震度5弱 輪島市)

5月5日 15:28

- ・支部災害対策本部立ち上げ(第二次救護体制)
- ・県の保健医療調整本部に職員派遣

5月5日 21:58

- ・能登半島沖を震源にマグニチュード5.9の地震発生
(震度5強 珠洲市 震度5弱 能登町)

5月6日

- ・珠洲市役所へ救援物資を搬送

5月8日

- ・珠洲生活サポート部会にて活動

5月9日(～11日)

- ・支部職員1名と金沢赤十字病院の看護師2名が
第一班として被災地へ

5月11日

- ・「珠洲市社会福祉協議会災害ボランティアセンター」
が開設し、赤十字災害ボランティアリーダーが活動

5月12日(～14日)

- ・支部職員1名と金沢赤十字病院の看護師2名が
第二班として被災地へ

5月13日(～14日)

- ・支部職員の看護師2名が第三班として被災地へ

5月16日(～18日)

- ・支部職員1名と金沢赤十字病院の看護師2名が
第四班として被災地へ

【令和5年奥能登地震】

被災状況

人的被害	死者1名 重傷者2名 軽傷者45名
住家被害	全壊38軒 半壊263軒 一部破損1,384軒
非住家被害	471軒

2市1町に災害救助法が適用(珠洲市、輪島市、能登町)

配布した 救援物資

毛布	100枚
安眠セット	200個
緊急セット	60個
簡易トイレラップポン	2台(貸出)

派遣人員 (延人数)

看護師	16名
こころのケア要員	6名
災対本部要員等	17名
赤十字ボランティア	61名



被災地(珠洲市)でのインタビュー

珠洲生活サポート部会 (保健福祉医療調整本部) 三上部会長 (珠洲市健康増進センター所長)

当時は、部会に入ってくるたくさんの情報から難しい判断を迫られ、「私たちに何ができるのか。」「何をすべきなのか。」など悩む場面も多かったです。そんなときに運営をサポートしていただいた赤十字の方に、「日赤はこんなことができますよ。」「こうした方がいいかもしれませんね。」といった寄り添った言葉をかけてもらい、背中を押してもらったことが、難しい判断を下す際の大きな支えになりました。私たちは、赤十字の方に寄り添ってもらい助けをいただいたことを忘れず、これからも地域に寄り添いながら復興に向けた活動を続けていきたいと思っています。



泉谷珠洲市地区長 (珠洲市長)

昨年の震度6弱の時と比べ物にならないくらい甚大な被害が発生しており、特に多くの住宅が被害を受けました。そのような中で馳支部長をはじめ赤十字の職員や各自治体からも多くの職員を派遣いただき、全国からボランティアの皆さんが片付け等にご協力いただいております。改めてご支援ご協力を賜りました皆様に感謝申し上げます。多くの皆さんにお越しいただくだけで珠洲の震災の復興に向けて大きな力となりますので、何度でも珠洲にお越しいただきたいと思っています。



金沢赤十字病院 前濱看護師

第二班として、高齢者や病気を抱えながら単身で生活されている方の健康状態や生活環境を確認するためお宅を訪問してきました。日赤のこころのケア研修で学んだ“みる・きく・つなぐ”を実践しました。過疎化が進む珠洲市は空き家が多く、両隣の空き家が倒壊しそうな方から、「看護師さんに言っても仕方ないけどね。次の地震で隣家が崩れたら被害にあうんじゃないか。」と言われたこともありました。そんな時も傾聴し、気持ちに寄り添うことを心掛けました。被災した自宅で生活を続けることを望む高齢者の方々にとっては、安心して暮らせる地域コミュニティを維持しつつ仮設住宅に移り住めるような支援が理想的であると思います。



赤十字災害ボランティア 北村リーダー

1日の活動を終え、「誰も怪我をせず、熱中症にもならず今日も終えられたな。」とホッとする一方で、被災者の方は「また地震が来るのではないか。」という不安を抱えていることが良く分かるため、ボランティアとしてどこまで自分の活動がお役に立てるのかと考えます。被災者の様々な想いや被災地の状況を聞き、考えるときには、赤十字と関わるきっかけとなった救急法講習で、最初に学んだ『人道・公平・中立』の基本原則を現場で体現するよう心掛けており、これらの基本原則を共有しながら、今後も支援の輪が広がっていくことを願っております。



災害からいのちを守るための日頃の備え

住んでいる地域を知る ハザードマップを確認する

住んでいる地域を知るためには、自治体などが作成するハザードマップが有効です。ハザードマップから、地域の危険や避難場所、防災関連施設などの情報を入手することが出来ます。なお、危険箇所や避難場所などは、地震や津波、大雨など災害の種類によって変わることがあるので注意が必要です。

安否確認の方法を決めておく

家族や親しい人の安否が確認できないことは精神的に大きな負担になります。災害時の安否確認の方法をあらかじめ決めておきましょう。災害時に電話が混み合うと、通信制限が行われ電話が繋がりにくくなります。電話が繋がらない場合は、インターネットを用いたメールや SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) を活用するほか、右記の方法を検討しましょう。

1. 公衆電話

災害時には一般電話や携帯電話よりもかかりやすい。

2. メッセージボード

避難先や家族の状況をメッセージボードや紙などのメモに残して避難。

3. 災害用伝言板

携帯電話から自分の安否状況を登録できます。

4. 災害用ダイヤル「171」

携帯電話などから音声録音したり再生できる、声の伝言板です。

ご近所との日頃からの付き合い

阪神・淡路大震災で、倒壊した建物に閉じ込められた人を助けたのは、消防や警察、自衛隊などではなく、大半が地域の住民でした。このように地域の住民による救助活動や、大雨による浸水や津波から避難をする際の声かけなどをより円滑にするためには、日頃からのご近所との付き合いやコミュニケーションが重要です。



支部の活動報告

SSTR2023

5月20日から28日にかけて開催された『SSTR 2023 (日本最大のモーターサイクルスポーツライダーイベント)』と連携し、ゴール地点に赤十字ブースを設置し、令和5年奥能登地震災害義援金の募金活動にもご協力いただきました。また、赤十字活動に賛同するライダーにコラボステッカー1,500枚を配布し、オートバイの車体に貼付し全国を走行することで石川から全国のライダーへ赤十字活動を発信していただきました。



ツエーゲン金沢

4月30日、ツエーゲン金沢のホームゲームを『日本赤十字社応援試合』として開催していただきました。昨年に引き続き『ACTION!防災・減災』をテーマとして、赤十字ブースでは募金活動や災害時に役立つ新聞の活用方法を紹介しました。今年は支部長(馳浩県知事)がブースでの募金活動やスタジアム内での挨拶を行いました。



ボディビル・フィットネス連盟

石川県と金沢市のボディビル・フィットネス連盟とのコラボ企画として、連盟から宮本選手、下田選手のお二人に出演いただき、子どもたちが地震発生直後に自分の身を守れるように行動するための〇×クイズ動画を作成しました。作成したクイズ動画はSNSなどで公開しているほか、子ども向け防災教室などで活用いたします。

動画はこちら →



金沢工業大学 DK art café

5月の赤十字運動月間に合わせて赤十字の基本原則である『人道』の大切さを発信することを目的とし、金沢駅鼓門にてレッドライトアッププロジェクトを実施しました。今回は金沢工業大学DK art caféの皆さんとライトアップの合間にプロジェクトアクションマッピングも実施しました。金沢駅を訪れる多くの方が足を止めて、いつもと異なる鼓門に注目されていました。



チャリティバザー

金沢、能登、加賀の3地区で地域奉仕団が集まり『赤十字のつどい』チャリティーバザーを開催しました。洗剤やタオル、食器などの日用品が出品され、たくさんの方が購入されました。また、能登地区会場ではかほく市奉仕団が遊休農地を活用して育てた玉ねぎが販売されました。収益金は令和5年奥能登地震災害義援金として県支部に寄付されました。



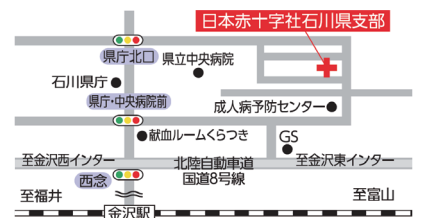
津幡町大雨災害ボランティア

7月7日から大雨で被害を受けた津幡町で、津幡町奉仕団、安全法奉仕団、青年奉仕団、無線奉仕団、石川県支部職員(計30日、のべ80名)がボランティアに参加しました。ボランティアセンター運営や被災家屋の泥上げ、片付けなどを行いました。30℃を超える中、片付けに追われる被災された方々にとって少しでも手助けになり、1日も早く復旧・復興できるよう支援を続けていきます。



 **日本赤十字社 石川県支部**
Japanese Red Cross Society

〒920-8201 金沢市鞍月東2丁目48番地 石川県医師会・日赤共同ビル1階
TEL:076-239-3880 FAX:076-239-3881
<https://www.jrc.or.jp/chapter/ishikawa>



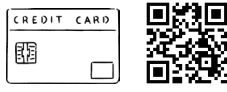
赤十字の活動を支えているのは、県民のみなさまです

郵便局・銀行の 口座振替で



QRコードより申込書をダウンロードし、必要事項をご記載のうえご郵送ください。毎年・毎月からお選びいただけます。

クレジットカードで



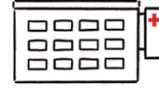
QRコードからの登録により、クレジットカードでご寄付いただけます。毎年・毎月・今回のみからお選びいただけます。

スマホアプリで



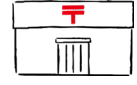
QRコードよりスマホアプリをダウンロードして、ご本人様の情報を入力後、募金アイコンから日本赤十字社へご寄付いただけます。

お近くの窓口で



石川県支部または、お住いの市町・社会福祉協議会の赤十字窓口、町会毎の社資募集用封筒でご寄付を受け付けております。

お近くの 郵便局・銀行で



払込票に寄付金額、住所・氏名等を記載し、郵便局・銀行の窓口にてご寄付いただけます。

赤十字寄付金付自動販売機

自動販売機の売上の一部を日本赤十字社への寄付とすることが可能です。新たに社会貢献活動を始めの一つの手段として多くの法人様にご活用いただいております。

自動販売機の設置

- 個人でも法人でも設置できます。
- ご寄付いただく売上の一部の割合は、ご自由にご指定いただくことができます。

協力飲料販売株式会社

- アサヒ飲料(株)
- (株)コーシン
- サントリービバレッジソリューション(株)
- (株)ダイドードリンコ北陸
- (株)ベネフレックス
- 北陸コカ・コーラボトリング(株)

詳細は石川県支部へお問い合わせください!



日本赤十字社キャラクター

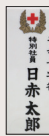


ハートプラス



日本赤十字社の活動資金の主な財源は、赤十字の趣旨や事業にご賛同いただいた皆さまからお寄せいただく寄付です。国や地方公共団体からの補助金が活動資金の財源になることはありません。

表彰制度

赤十字活動資金のご協力に対して、次のとおり表彰制度を設けています。

日本赤十字社の表彰	条件	表彰品	個人のみ選択
特別社員 (個人のみ)	累計額が2万円以上	個人:称号付与通知書	支部表彰品 (こちらから1つ選択)  門標 (陶器製)  オリジナルピンパッチ  クロス防災グッズ8点セット 巾着(左記写真)、タオル、携帯トイレ、スリッパ、マスク、レインポンチョ、ブランケット、ホイッスル
銀色有功章 (個人・法人)	累計額が20万円以上	個人:有功章(楕型) 法人:有功章(楕型)	
金色有功章 (個人・法人)	累計額が50万円以上	個人:有功章(勳章型)、章記 法人:有功章(楕型)	
社長感謝状 (個人・法人)	金色有功章受章後、 累計額が50万円以上	個人:感謝状 法人:感謝状	—

国の表彰	条件	表彰品	備考
厚生労働大臣感謝状 (個人・法人)	個人:100万円以上 法人:300万円以上	個人:感謝状 法人:感謝状	・同一年度内での寄付累計額が条件を満たす必要があります。 ・同一寄付で紺綬褒章と同時申請はできません。
紺綬褒章 (個人・法人)	個人:500万円以上 法人:1,000万円以上	個人:褒状、褒章 法人:褒状	・分納の場合、初回寄付の際に分納のご意思をお伝えください。 ・同一寄付で厚生労働大臣感謝状と同時申請はできません。

令和4年度決算

「令和5年度第1回日本赤十字社石川県支部評議委員会」を実施し、令和4年度事業報告や決算が審議され、原案どおり承認されました。

